

### 1. 第三者評価結果概要表

作成日 平成20年 4月10日

#### 【評価実施概要】

事業所番号	2891300028		
法人名	医療法人社団 正峰会		
事業所名	グループホーム メディケア柏原		
所在地	兵庫県丹波市柏原町柏原1436 - 1 (電話) 0795 - 72 - 3326		
評価機関名	特定非営利活動法人 姫路市介護サービス第三者評価機構		
所在地	兵庫県姫路市安田三丁目1番地 姫路市自治福祉会館6階		
訪問調査日	平成20年 3月 6日	評価確定日	平成20年 4月10日

【情報提供票より】(平成20年 2月16日事業所記入)

#### (1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成19年 5月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	14 人	常勤 13人, 非常勤 1人, 常勤換算	13.3人

#### (2) 建物概要

建物構造	耐火構造 造り		
	2階建ての	1 ~	2階部分

#### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000 円	その他の経費(月額)	15,000 円	
敷金	有( 円) (無)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 200,000円 ) 無	有りの場合 償却の有無	有 / (無)	
食材料費	朝食	350 円	昼食	550 円
	夕食	550 円	おやつ	150 円
	または1日当たり 円			

#### (4) 利用者の概要(2月16日現在)

利用者人数	18名	男性	6名	女性	12名
要介護1	5	要介護2	7		
要介護3	4	要介護4	2		
要介護5	0	要支援2	0		
年齢	平均 85歳	最低	75歳	最高	96歳

#### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	大山病院、八木歯科
---------	-----------

#### 【第三者評価で確認されたこの事業所の特徴】

便利の良いJR柏原駅に近く、自然環境に恵まれた場所に位置し落ち着いた雰囲気グループホームである。開設時職員で考えた「利用者一人ひとりの思いと地域での生活文化を大切に、心の通い合うケア」を理念に掲げられ、ホームの5つの目標に添って日々のケアに当たられている。ホーム長をはじめ職員は入居者の思いや意向を会話や意向から汲み取り、思いがその時、叶えられるよう取り組まれている。入居者の表情は穏やかで落ち着いており、入居者、職員共に明るく活気がある雰囲気である。又、近くに森の公苑等多くの施設があるので外出の機会を増やし、地域との交流の機会を持ち、地域に根ざしたホームを目指されている。

#### 【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:第三者4)
	今回がはじめての受審である。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:第三者4)
	開設より10ヶ月を経て自己評価を実地するにあたり、管理者と職員共に取り組まれている。自己評価を今までの振り返りの機会とし、多くの気づきや課題を得られている。評価を計画的に実地することにより、自分たちのケアを見つめなおし、改善点を具体化し、向上を目指してもらいたい。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:第三者4,5,6)
	自治会長、民生委員、市介護保険課の課長、市の介護相談員をメンバーに2回実施されている。事業所の概要説明、現状報告や丹波市との連携について話され、接遇面での意見がでたり建設的な話し合いもされている。今後はメンバーに入居者本人やご家族も交えて、質の向上を図ってもらいたい。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:第三者7,8)
	個別には1ヶ月に一度ホームでの様子を報告し、面会時に会話の機会を持ち、要望や意見を聞く様にされている。今後、改善の窓口となるよう家族会を立ち上げられる予定である。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:第三者3)
	近隣の店とは馴染みの関係となり、交流ができている。地域の祭りに参加したり、ボランティアによる訪問もある。柏原地区に根ざしたホームとなり、地域の人たちと支え合う関係づくりへの取り組みづくりが期待できる。

## 2. 第三者評価結果票

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	地域密着型サービスとしての理念  地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設当初に、スタッフがどういうケアを行いたいか意見を出し合い、法人の理念にのっとして事業者独自の地域密着型サービスとしての理念をスタッフ全員で作上げた。広報誌にも都度掲載され、家族等へも啓蒙されている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み  管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ケアの疑問や方向性についての問題が生じた際は、ミーティングの中で、理念や理念の中にあるケア目標を確認し合っ、日々取り組まれている。スタッフの案から作り上げた理念はケアの原点であり、指針として玄関先に掲示されている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	地域とのつきあい  事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の春祭りや秋祭りに参加している。又、よさこい踊り等のボランティアを募り、来所して貰い交流に努めた。日常的には散歩の途中に近隣の馴染みのお店に立ち寄り、お茶をいただいたり等の交流を行っている。		社会福祉協議会との窓口となるボランティア受け入れ担当スタッフを決めて、コーディネートを行っていくとの新たな思いがある。又、今後も自治会の協力を得ながら地域の行事に参加して、周辺の方々に入居者が地域住民として認知してもらえるよう積極的に交流を深めて貰いたい。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	評価の意義の理解と活用  運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	初めての自己評価と第三者評価だったため、今回はスタッフに意義を理解してもらう段階であった。1階ユニットはホーム長が、2階ユニットはスタッフが、自己評価を行った。		自己評価と外部評価の結果を踏まえ、改善計画を作成すると共に具体的な改善に取り組んでほしい。優先順位を決め、出来る事から実施して貰いたい。

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>自治会長、民生委員、市介護保険課の課長、市の介護相談員をメンバーに、2回実施されている。事業所の概要説明、現状報告や丹波市との連携について話され、接遇面での意見が出たり、建設的な話し合いもされている。</p>		<p>今後はメンバーに入居者本人やご家族も交えて、質の向上を図ってほしい。</p>
6	9	<p>市町との連携</p> <p>事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>丹波市地域包括支援センターとは、問い合わせや紹介等で連携している。市町担当者とは事務長が機会を捉え介護課に立ち寄り、状況等を伝えたりしている。</p>		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	<p>定期的に広報誌「ともにある」を発送したり、個別には1ヶ月に一度ホームでの暮らしぶりを報告している。金銭管理については、出納帳と領収書を家族に確認してもらい、サインをもらっている。健康状態については随時、電話連絡をも行っている。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>職員、管理者共に面会時に会話の機会を持ち、要望や意見を聞く様にされている。</p>		<p>今後、改善の窓口となるよう家族会を立ち上げられる予定である。家族会からの意見として、外部に意見を表せる機会を設けてほしい。</p>
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>平成19年10月と平成20年3月に退職者がいたが、理由をきちりと伝えることにより入居者の理解を得た。入職者については同法人の特養スタッフだったため、入居者へもスムーズに受け入れられた。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人には、特養やグループホームがあり講師となる人材もいるため、スタッフの意見を取り入れながら、施設内での勉強会が行われている。外部研修においては本部からの研修日程や内容をみながら、スタッフが志願したりホーム長の推薦で参加させている。参加後は、他スタッフにフィードバックしている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	当法人には4ヶ所にグループホームがあり、広報誌の交換や、管理者参加の会議が行われている。今年度はスタッフの交換研修が事業計画にあげられている。		
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	スタッフは、本人が入居について納得されないと、帰宅願望等の行動障害が出現することを理解しており、入居前には本人と家族にホームで過ごしてもらい、入居について納得してもらうことに努めている。入居当初の生活においては、家族に外泊等の協力依頼を行いながら、ホームに馴染んでもらうよう支援している。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	利用者と共に過ごし支えあう関係 職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の得意な、食事作りの場面で味付けを学んだり、野菜の切り方を学んだりしている。昔の生活を聞きながら学び、相互に支え合う関係を築いている。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入居者の2/3位の方が意思疎通ができる為、日頃の暮らしの中で思いを傾聴している。ご主人の命日だと言う入居者のつづやきより、お花を買いに行き、墓参りの支援を行ったりしている。入居者よりが困難な際は、家族からの情報により好きなおかずを一品つけ、話題を提供したりと、本人本意に実践している。</p>		
<b>2. より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>入居者の生活歴や生活の希望についてが盛り込まれた、利用者ケア情報に基づき居室担当者、管理者、計画作成者がサービス担当者会議で話し合い作成している。今後のアセスメントについてはセンター方式をとの検討も行われている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>定期的にもモニタリングが行われている。転倒等のリスクや変化が生じた際は、ケアカンファレンスを行い、申し送りで職員への周知を行い、対応が行われている。</p>		<p>職員への申し送りと同時に新たな計画書を早い段階で作成し、家族の理解に繋げて貰いたい。</p>
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>以前からのかかりつけ歯科への付き添いを行ったり、墓参りの付き添いを行ったり等、その時々々の要望に柔軟に支援している。又、入居者の状態に応じて家族の泊まりを支援したりしている。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	かかりつけ医の受診支援  利用者や家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事前に利用者や家族と相談し、受診する医療機関を決め、家族に付き添ってもらったりしている。家族の付き添いが出来ない入居者にはスタッフが付き添っている。下肢の痛みを訴える入居者についても昔からのかかりつけ医への、つき添い援助を行っている。2週間に1回、協力医療機関の往診も行われている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有  重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合の不安については、契約時や家族より話があった際に、家族の判断に基づき、現ホームで出来る限りのことを支援すると伝えている。又、スタッフにも管理者の思いを伝えている。		重度化や終末期に向け指針を文書化し、今後の方針としてもらいたい。契約時、体調の変化時に、段階的に入居者と家族の思いを確認しながら、ホームの支援方法を説明し、家族、スタッフの安心と共有を図ってもらいたい。
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>					
20	50	プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報保護法を理解し、記録物は書庫に保管すると共に、日々のケア記録においても広げたままで側を離れないことをスタッフに周知している。又、入居者の誇りやプライバシーに配慮した言葉かけや対応に努めている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人の入居者については、毎日の食後の外出の希望を聞き入れ、付き添いを行っている。他の入居者についても、希望に添っての外出援助や喫茶店への付き添いを行っている。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日、法人のセンターキッチンからの半調理の食事が届けられ、入居者とスタッフで野菜切り、味付け、盛り付けが行われていた。食卓では食事の味について等の談笑が見られた。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居者の希望に添えるようスタッフを配置し、本人に希望を確認しながら、午前、午後、夕食後と一人ひとりに合わせた入浴支援が行われている。毎日、夕食後に入浴したい入居者の対応も行われ、入居者本意に努めている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の場面での役割が多く、男性入居者でも食後の洗い物をすべくスタンバイされている日常である。又、生活歴から楽しみごとへの支援が行われている。一人ひとりに応じた題材を使用し、脳活性化リハビリを行う準備も出来ている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホーム周辺の散歩、スーパーへの買い物、子供が遊ぶ近隣の公園への外出と、全員又は、個々での外出支援が行われている。散歩の途中では近隣のお店でお茶をいただいたりしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関に鍵をかけられ、自由に出入りが出来ない苦痛さをスタッフ自身で体得し、鍵をかけないケアへの実践が行われている。入居者の行動パターンを職員が十分に理解し、目配りと気配りでの対応を行っている。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	6/29には日中を、12/2には夜間を想定した防災訓練が行われた。避難、火災消火、救急訓練が行われた。又、訓練が行われることを近隣に知らせたり、日頃の買い物や散歩の際、避難場所の確認と地域住民への協力をお願いしている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	管理栄養士により献立が作られているため、栄養管理が行われている。食事、水分摂取量が健康管理量に記載されスタッフ間での把握につながっている。水分摂取の重要性をスタッフが認識し、入居者に水分補給を勧めている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	玄関や居間には、額や入居者作成の雛人形の作品が飾られており、生活感や季節感が採られていた。食卓では床に足が届きにくい入居者に手作りの踏み台が置かれていたり、居心地よく過ごせる工夫が行われている。		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	ベットとチェストは木目調の家具が据え付けられているが、他の物についてはそれぞれに使い慣れた物やひ孫の写真等が飾られ、居心地良い居室の工夫がされている。カーテンも居室によって色違いの丹波織りの布が使用され、落ち着いた雰囲気となっている。		

 は、重点項目。